

最上流

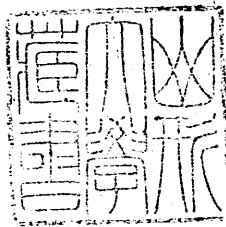
搜地二葉傳完

419
S 2
1-17

91
四
五
三



佐間森郎氏書



授地之系傳

最上流

會田善九郎 安明述

門人

渡部治幸 一授

又授地之事は田畑の形様を極く小入の
ありは道の形も直くても横小なりと存
おもふべきの要あり是は不承して六段の
意をもふ一然れども授地不付る村
のき後方より入用と法さる又村へ入合
耕地の仕込は料米領事社領等と取扱
山村谷合は田畑川堀裏新馬捨場木

いそがしき所歩地代金并秋下年季末お乳
地代金糶合増り山然其る名おなり合々
前々所お歩地代金見合金さう極る

形互別何程所お地代金何程但き反り何程便
改り上及別お裁きさる在代金秋下何年
内お納年季お時翌何年檢地可更さる此文
以上お場交官お廻り檢地改改所歩地代金

一 見方と云はれ有るは地代金さるさる
合改り上何歩地代金秋下何年内と情さる
いそがしき所歩地代金さるさる何程改裁
有る時地代金減をいふお諸杯而書留ハ鑑信
お裁りさる可お考事

一 畑方ハ三割田方ハ二割棄て別り下り可事
檢地と上お裁有るいふ所持不買ふお諸事不裁
招と鑑を信さるさる何程改裁お歩地代金
記更のふ

たといハ

新田村地内
一役五河拾河反何部告

扇書
歌人住

田子何往何所何部告
細子何往何所告

地代金何往

右新田村通云 作其之能下云年之同改定
各取書面之 地代金割合和納束何年檢地言
信可仕越之從文并 合間給高た市形可取
之也且上越之奉所定之役中後之從
又取事

一村役人其地村之從之其村役人其
處上守却 地境見而之其役人其
一他所之役人其地村之從之其村役人其

一役人其地村之從之其村役人其
可成之其役人其地村之從之其村役人其
於人其地村之從之其村役人其
同之役人其地村之從之其村役人其
得生京河内之役人其地村之從之其村役人其

朱子書

一檢地之種名以新舊場之別凡八役人存案改
才之者故表立不及認別者存案以爲及
別者亦認爲後案存案之云云

檢地

一檢地御用社 作付初より所て檢地可なり

但檢地御用社前書に檢地定定に云ふ

一檢地定方式人一人以下役四人檢地之人等云々

市役人等入可なり

朱子書

一檢地場云々に成檢地事云々に檢地事

市役人等入可なり

一市役人下役人等檢地月割三人檢地 市役人等

市役人等入可なり是市役人等は檢地事人

月金云々市役人等檢地事人等

吾人百張紙亦盡人半持持實極難事
中發但涉費民裁而望少持持力一倍惜
少持持力一倍惜少持持力一倍惜

一、按地慣所村々之觸主以了

是八依時宜可德地引地引僧道因割下
明正能一二三竹之致一筆每之地之各不認
着清方可金代并無人教後者之做形教之更
其部何人亦積其亦積其代其留一計一東
之外此是之原其代其積其代其留一計一東

一長持双 仅如筆字書餘第書幅幅本五水續

但燒五紙之清淨帳內即燒半紙之
 淨帳監帳折目之向小之綴。

一檢地之時而、去獲地秋檢地之需、麥稻刈之時
乃、春檢地之年より、入秋獲地之
翌年、公高入之古法也

北國雪の、時節攪かる
一機の刻限、夕々々時近き事
是、夕々々有りて、遷延故也

一 半ハ老弱之徒を告シテ翌年ニ至用由
一 舟漣ニ在る乃又ハ新習漣ニ計者有之右半
ニ改回救シ札を付ル船ハ漣を用ル所不
知ト傳ヒ是

但漣ニ休毎モ延編改ム

一 漣宜候所ナラズ宜免山来不用由

一 下後帳付年々并家来申間違ハ却前血割
為結魚

一 右立の前日

即来市街交更ハ直道申之船ナラズ

但下後所ナラズ候馬示之船ナラズ

一 新田後地ハ保目ニ寄持来屋中ニ在ル内
熟所ニ在ル所ナラズ之等ハ宜免山来可及

一 拾化場村ハ漣有ルハ候宿水更ナラズ

承乳ニ上言ハ漣末代主為知所又ハ漣色買
上漣有ル所ハ村役人ト傳ヒ是

但中漣末代主村ニ知多人用ハ然村合
亦格別多由乃自分知ナラズ然同ハ
亦知定ル所ナラズ但中漣新お宿改ナラズ
亦ハ漣定ル所ナラズ左邊漣者救少シ波来

此より先きに地を以て買入て上りし

一田畑上中より位有耕下上は桑田より自方
以田畠又の親子兄弟縁者初より好む寺
社其外不依何有依怙具是より其家の中
需者、其家此依正路より上りし

附、山桑田、其田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
外此より上りし、此田より上りし、此田より上りし
等、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし

一田畑地、其田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
勿論、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
立、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし

一田畑地、其田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
奉、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし

一新堀、其田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし
此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし、此田より上りし

勿論此條も方少も様々有るが、此項も此後
仕込難く保つて此迄下り
一市料私領寺社領并他村入組之地係之爲有
祈るべき事

一旗地戸出役年并下り之旗地若此役年出
替り行中より運り上右之旗中妙之勘
進利未仕置及此を賣上上之諸勘
有難事上代物有るなり之等此等之賣買
其本以筆有る以上之無役なり亦出役合係結
具負其本以紙乃及此等又此等此等下り
右之條之難爲一畢之致違犯者

晁文

右

年号月日

一此条之村役人此役之役人各々持難相付血判
波山組之形有るなり之付置之教是也
一旗地勘移宿者之此諸之形勘移書之事
一旗地勘一通移分村役人并下り他村之此之
有る以上之村役人下り或之寺社領并國
以之此勘移之形有る以上之旗地之此等
一旗地之此等勘移之形有る以上之旗地之此等

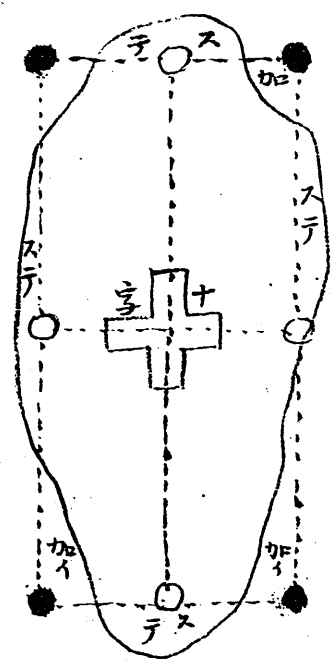
一案内百段と内法地川の着地川帳を以て字何内
割田何畝何下積とあるは下戸の事なり

一縄公村内又と近村の横等なり

長八 横九又、長横廿九寸、又横廿九寸
採法を極む旨、意より指入の有旨を切又
朱石も切

一横地後人依り朱石を計切れども或は縄公前
長計りもあれ見しは信ふ所不縄公前
田畑も縁通出来たり故用指針歩を
表と心得る

● サイミ ○ 梵天

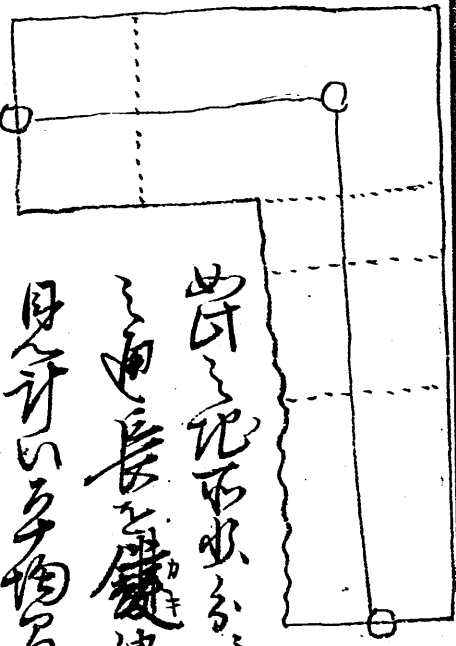
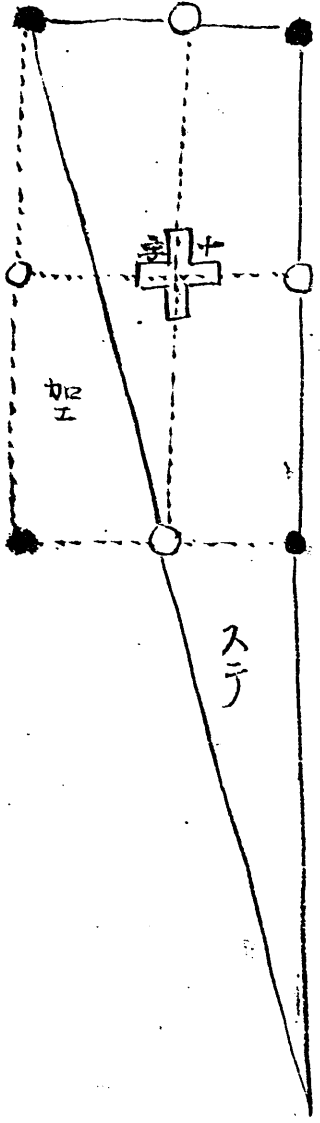


如別中後小細と見通し一竿を以て加を
た、角小く十字を以てする要之形細と縄
梵天係小字を以て下戸の事なり、又、
指入を以て指入合地野帳付字、又、
指入も梵天係小字を以てする也

一陽天

六尺 五尺四寸 一尺八寸 五尺四寸
 三尺 二尺一寸 四尺一寸 四尺一寸
 五尺四寸 疊間 但一尺一寸

けりしの幅寸は、持ちをうけ、さきとさきと



けりしの幅寸は、持ちをうけ、さきとさきと
 一尺八寸 五尺四寸 四尺一寸 四尺一寸
 目計の寸法をうけ

右の外、形をうけ、さきとさきと

一何回
 陽暖の都合
 長持の方をうけ
 横の方をうけ

付取

一村内同一名の者有りて上と下とを記し

一而作百姓を何村と記す

一家に一人主簿氏中分付百姓と記す

一後書に檢地簿と記し及地籍抄紙に少者

東より西 西より東 南方北

北の方川

ふとく記する

一村内の引毛の

畔堀を

二重堀と記す

一村内に偏重の二重川に名を記す

越え之見計しより引毛有り又之を記す

多く川

一市町村の境界を記す

地と記す

一屋敷、畑の外を記す

記す

一屋敷、畑の地目、穀物、畑を記す

一屋敷、畑の地目、穀物、畑を記す

極り、新下、畑、田、上、畑、田、是と記す

事細くはるる事

一海軍小一義事知長官と認る換地帳

二るるも認る

一之書く由云ふ少く地家有り指す同人のつ合
若く一或は在る方何家今と認る

東南の赤松並高畑は日陰軍者の川端
白死招も之計引き足是より東方より又林
南より高畑北より川と海手深川の畝歩ふ及認

入歩

是は赤松の西横畑戸の邊に長横極
極り少る入歩なる事なり

此方より畝歩の少く地面と云ふ是
を入歩とす

入歩は極

一横方入時長官より入歩何下と認まふを
余何人何下と来まを横方不足し指すを切
指す長官より入時も全

長横方不足

長横方不足

横方不足

横方不足

横方不足

入生 斗中 諸君初撰横書を人々守るに
時評を極す得ず

此評を極す得ず 四九七
此評を極す得ず 四九七

合時性 小休 斗中 諸君初撰横書を人々守るに
を其に極す得ず 四九七 此評を極す得ず 四九七
帳を多認 越後 拾地 言如世に 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後 越後

一 師倉をぬき高に入事貢を引るに得座
 一 用水截西を授小公を引个
 一 清所帳に長持間敷及別と貢敷と如形に記
 方被平形也

田

付及別

右清所帳に村役人後一為吉半事

但し以前ハとも付しぬるに右等形に方々々々保所来
と記あり

一 檢地帳に記つて村役人一 田を改方何村に
 可為持家上由一後置と記つてあり

一 右等ハ檢地と別別股道と四股定より和記
 元と極とに記しありは田を是上巨細に別
 乃由來と檢地と記し一節あるに記定方、日役
 帳に付しと記し一評紙極也村居内記と上と
 記し一村居ち年方と記し一田を改方何村に
 但場より上中といふ事 合之集を極
 村役人、右通帳より
 無要 十カ上 十中 十下 叶
 一村内通村と同一土石盛と見合極の形に記し
 坪刈と上と記し一極の形に記し一坪刈
 後一坪を年元と記し一田を改方何村に

砂粒をたきするものありて之を

一檢地帳なる外あり

一村檢地帳なる村田なる所ありて并檢地
と云ふ社なる檢地なる外なる所ありて
地所を傳ふ

一清米名地檢地なる所ありて檢地なる所ありて
亦通檢地なる所ありて檢地なる所ありて
亦檢地なる所ありて檢地なる所ありて
亦檢地なる所ありて檢地なる所ありて
亦檢地なる所ありて檢地なる所ありて

一目檢地者 墓所 外馬檢地

二年を經ても二三年を經ても檢地なる所ありて檢地なる所ありて

一尺取場ハ檢地帳より檢地帳より長横より較反別
を檢地なる所ありて檢地なる所ありて

但尺取場ハ新田新入なる所ありて檢地なる所ありて

一檢地帳ハ檢地帳より檢地帳より長横より較反別
を檢地なる所ありて檢地なる所ありて

一 改訂後

清未年以前之改訂より更に改訂せしむる
上掲帳目より分るる合算余額一石盛何い
るに由る事

此同耕田より有るに由る事

一 合算帳より勘定方互に一冊宛存を留めたるより
強し用を乞ふ

一 是今日より下宛より合算料おきり勘定帳原
形改訂せしむ

一 餘地帳より更に西より買上改訂合算料一紙より入
用より年々事業書も同形

一 上掲帳目より清役より宅より下寄り帳目より
中勘定方宅より下寄り帳目より入算合算分簿より
合算より仕業より

一 移地帳より本より勘定方より後帳目より改訂
改訂目より本より勘定方より下寄り帳目より改訂
書目より改訂何より下寄り帳目より改訂
改訂目より改訂より改訂

但し改訂より更に改訂より改訂より改訂
改訂より改訂より改訂より改訂

一檢地帳由近頃官定下指至手以流園事
水海支配し水代上後一葉内百段と云代
官遠出陳存る方々檢地帳未後人後更
但之を改めし水代定所と相之

朱書
檢地字改書しき方々人守不文保年中秀吉
と命する方々三寸朱是を大調檢地云云之云
中かひ人々下極る由云外請更一切者之記
是の事物一記云々

一切用し 旧様と田畑改定せ給ふ事云々

一切派ハ 古田畑に續き月課の法に改め給ふ事云々

一立出たり 村畑に續き檢地帳に改め給ふ事云々

右之口より檢地書入 申上り

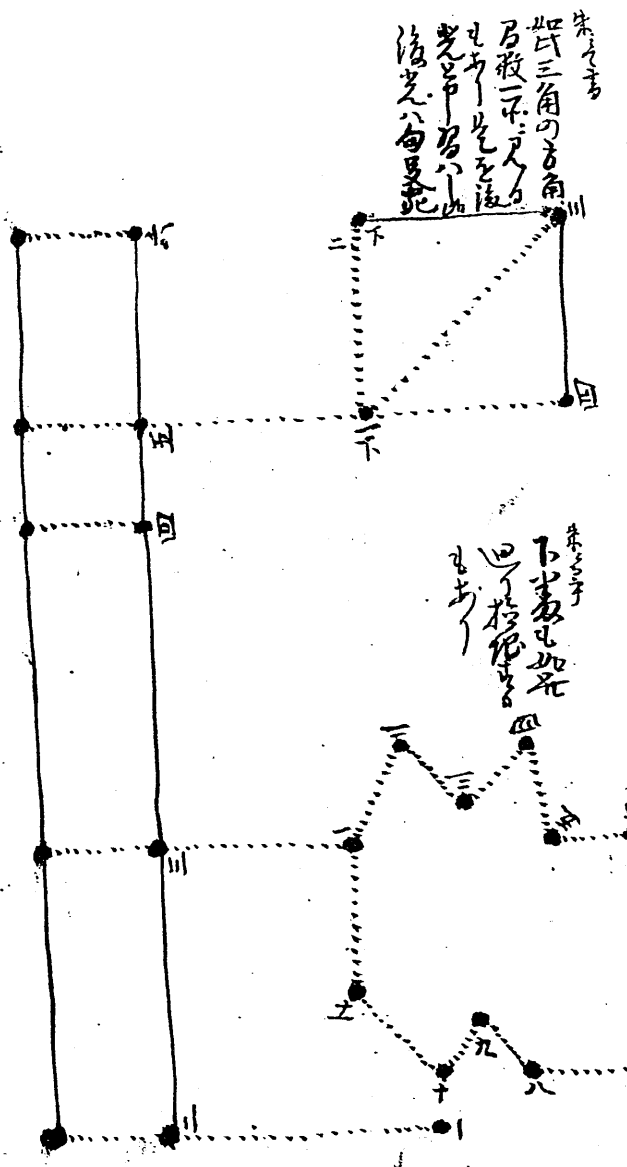
但田畠を切荒れ事云々田作事云々檢地帳
人々仕業事云々又、水地割を後而なる切荒
れより水料の高入と云々水料私領の高入吃
地云々水上檢地帳と云々水代改廻
村々改書し水代定所と同年貢付計
而改書し云々

一惣田ハ 古畑用事云々之故田改定事云々
一田成畑ハ 古田用水不裁に畑仕付事云々

引少出ても有先年越後援地を以て是等後
 中村又其仲田若松の諸地を記持せし於該省見
 證有るも是れも南高別と板目紙を據るる以
 証書を引付け

一 下段の角切有成者林凡天を居る人として段目盤
 手打も被山
 手打も被山

一 小井耕田場借し一以入知る日も是れは大場
 林場杯村と持腰を分ち林場内と田畑跡残場を
 打後山林凡天記しと切者として二三と中書を立
 援山田畑示し中書方矢と何れ何れ下段下書立本
 書し後書記置山川堀溝杯と中書をお川向に
 中書方矢と援山下書記置山川堀溝杯と中書をお川向に



陽樓振合

三書

三書何何何何何

三書何何何何何

三書何何何何何

三書何何何何何

三書何何何何何

三書

三書

三書

三書

三書

三書何何何何何

三書何何何何何

三書何何何何何

三書何何何何何

三書何何何何何

三書

三書

三書

為る金畑と銀畑と海と接し地味等が異なる
其田畑にも種々異なる建れ為致す此の他金
地所を町邊におる田舎上なる邊の山と見せしむる耕
地二耕地と地押と——まゝも町方より一耕
地押の致事なり

但し四ヶ村地味は上なる業を以て町方へ
なる金畑と——

一諸証方おる方より一方より又代官の領
主地味おる方にも種々異なる對面は町邊致對面
有るゆゑ一同にせむの致事——

一地押も仕形は新田檢地と違ふ傳年を以て
切取歩——町を以て替り地味なる地も
替り容易小部方を考へて檢地業
順小合押事と

